

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

倉内紀子

倉知雅子

佐藤睦子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

長谷川賢一

春原則子

深浦順一

藤原百合

水田秀子

矢守麻奈

陽光の明るさに、春の足音を感じる季節になりました。本誌は創刊から12年目の春を迎えることとなりますが、2004年の創刊号から今号までの目次をたどりますと、言語聴覚障害学の歩みと臨床環境の変化が手に取るようにわかります。

創刊号では笹沼澄子先生、伊藤元信先生、船山美奈子先生が「発刊に寄せて」と題し、寄稿されています。このうち笹沼澄子先生はEvidence-based Practice(根拠に基づく臨床)を確かなものにするため、言語聴覚療法のアウトカム研究(効果研究)の必要性について熱く述べられています。これまで本誌に掲載された新しい治療法とその効果を検討した原著論文の数々、また(社)日本言語聴覚士協会学術研究部が行ってきた各種障害臨床に関する調査研究はそのような研究の一部をなすものといえます。今後は、協会が推進役となって言語聴覚療法の効果に関する大掛かりなプロジェクト研究が始まることを期待したいと思います。

伊藤元信先生は、論文発表の重要性について力説され、研究は学術専門誌に掲載されることによって結実するのであり、学会における口頭発表はその通過点であると述べられています。日本言語聴覚学会では毎年300題を超える演題が口頭またはポスターで発表されますが、そのうち論文として発表されるのは1割弱でしかありません。研究ではその方法と成果を他者が追試できるようにまとめて公表し、専門家の批判を受けることが求められますが、その形態としては論文が最も適しています。本年も、多数の研究が学会などで報告されると思いますが、是非その成果を本誌に投稿していただきたいと思います。

今号には、第15回日本言語聴覚学会におけるセミナー講演「成人吃音の臨床」(坂田善政氏)とシンポジウム「言語聴覚士のあるべき姿の再考—成人言語聴覚障害領域」(座長 藤田郁代氏)が掲載されています。シンポジウムでは臨床・研究の経験豊かな先生方ご自分の臨床に基づき言語聴覚士のStand Pointについて深く考察され、実に読みごたえのある内容となっています。原著論文は失語症の音韻符号化訓練の効果が検討され(鈴木恒輔氏)、EBPを支える研究成果が示されています。またリポート「現場、最前線」では米国に留学し大学院で言語病理学を学んだ田宮愛氏がその実体験を生きいきとレポートされており、留学を志す方々の参考になるものと思われます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第12巻 第1号)2015年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2015, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)